

(株) 苫東 第 22 回 経営諮問委員会の概要

- 1 日 時 平成 30 年 5 月 22 日(火) 13:00～14:20
- 2 場 所 ホテルポールスター札幌 4 階「ラベンダー」
- 3 出席者 9 名中 8 名出席
- 4 議 題 (1) 最近の主な動き
(2) 平成 29 年度経営概況について
(3) 平成 30 年度事業計画等について
(4) 苫東地域の次世代プロジェクトについて
- 5 委員からの主な意見

□臨港地区において、来年完成する冷蔵冷凍倉庫を起爆剤として、食資源の付加価値向上、機能強化につながるように、さらなる国際コンテナターミナルの活用及び食と物流が一体となった取り組みに期待したい。

□苫東地域は港湾と空港のダブルポートを有し、物流拠点としての優位性を持っている。北海道フードロジスティクス・イノベーション推進協議会において建設的な議論が重ねられ、今後、食の輸出につながるものと期待している。

□北海道は再生可能エネルギーの宝庫であり、水素エネルギーを含めた今後の取り組みについて苫東が中心的な役割を担っていくことを期待している。

□北海道は積雪地域であることから、冬道における自動運転の研究開発が必要であり、実証実験の一層の推進を期待したい。

□決算において分譲面積は減少したが、増収増益となり一定の株主還元がなされていることは評価している。

□昨年度の分譲 5ha に伴って、雇用が増える見込みであり、また、既に苫東地域には 3,500 名の雇用があることは大いに評価できる。

□会社設立時の埠頭収入で経費等を賄うというスキームが現在でも実行されており、会社設立時の構想が守られていると感じた。

□2045 年までに北海道の人口は 25.6%減少すると予測されている。人口の 6 割以上が道央圏に集中しその 4 割以上が高齢者となる。そのような人口構造の変化の中で苫東としてどのような役割があるのか考える必要がある。

□苫東は食糧倉庫の立地などで新たな展開に入ったと思うが、苫東の価値を高める上では世界の状況を認識しもう一步新たな展開を見せる必要があるため、バイオオープンイノベーションと創薬・製薬関連のプロジェクトを誘致するのも必要ではないか。

以上